

第4回 B中学校（仮称）準備委員会 会議録

開会日時 令和8年3月27日（金） 午後 2時00分
閉会日時 令和8年3月27日（金） 午後 3時26分
場 所 愛西市役所 南館1階 会議室1－3、1－4

■ 出席委員

委員長	勝田 拓 真
副委員長	渡 邊 徳 仁
下東川町総代（八輪小学校区）	横 井 研 二
町方町総代（草平小学校区）	神 谷 篤 治
湧高町副総代（西川端小学校区）	阿 南 善 洋
八開中学校学校評議員	細 野 淳 子
佐織西中学校学校評議員	伊 藤 正 宣
佐織西中学校学校評議員	渡 邊 芳 裕
八輪小学校 PTA	伊 藤 滋 矩
開治小学校 PTA	野 崎 勇 志
草平小学校 PTA	渡 邊 幸 愛
公募委員	村 上 尚 美
公募委員	鈴 木 幸 子
公募委員	飯 野 大 輔
公募委員	伊 藤 敦
八開中学校校長	市 川 昇

■ 欠席委員

給父町総代（八輪小学校区）	三 輪 好 一
八開中学校学校評議員	吉 川 立 洋
八開中学校 PTA	横 井 祥 晃
西川端小学校 PTA	深 堀 ゆ か り
佐織西中学校校長	中 山 政 彦

■ 事務局

教育委員会

学校教育課長

学校教育課主幹

学校教育課課長補佐

学校教育課主査

学校教育課主事

伊 藤 光

荒 井 昇

坪 井 靖 史

水 谷 繁 夫

柳 瀬 悠 里

■ 傍聴者

0 名

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事

(1) 検討部会の報告

(2) 答申書（案）について

(3) 今後の検討について

4. 閉会

(学校教育課長)	本日はご多用の中、定刻までにお越しいただきありがとうございます。本日、進行を務めさせていただきます、学校教育課長の伊藤と申します。よろしくお願いします。給父町総代の三輪好一さま、八開中学校学校評議員の吉川立洋さま、八開中学校 PTA の横井祥晃さま、西川端小学校 PTA の深堀ゆかりさま、佐織西中学校校長の中山政彦さまにつきましては都合により、欠席の旨、連絡がありましたので報告いたします。ただ今より、第4回 B 中学校（仮称）準備委員会を始めます。当会議におきましては、「愛西市審議会等の会議公開に関する要綱」の規定により、公開の会議となります。なお本日、傍聴の方はお見えになっておりません。また、本会議では、オブザーバーとして愛西市教育委員会の水谷委員、大竹委員が同席しますので、ここでご報告いたします。最後に、当委員会議事録作成のため、事務局にて録音をさせていただきますのでよろしくお願いします。続きまして、本日配布の会議資料について、ご確認をお願いいたします。配布資料として、次第、資料1「各検討部会の意見」資料2「答申書（案）」となっております。不足がありましたらお知らせください。 《不足なし》
(学校教育課長)	それでは、次第の2あいさつ、勝田委員長、よろしくお願いいたします。
(委員長)	みなさま、こんにちは。勝田でございます。本日は年度末の大変お忙しい時期にご出席いただき、誠にありがとうございます。先週は小学校で卒業式、そして今週は小中学校での修了式が行われ、子どもたちの新たな旅立ちの時期となりました。地域、保護者の皆様、学校関係の先生方、誠におめでとうございます。教育現場でこの言葉が使われるようになりました、VUCAの時代、予測困難な時代という言葉をよく耳にします。昨年8月に開催した前回準備委員会の頃から今日に至るまで、短い期間ですが、社会情勢、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化したと思います。こういった時だからこそ、子どもたちに生きる力、生き抜く力を育んでもらわなければならないと感じます。地域の方々にも子どもたちの味方になってもらう、サポートしてもらうということもあるかと思っておりますが、どうぞよろしくお願いいたします。11月に委員の皆様方には部会を開催していただき、熱心に議論を重ねていただき、本日、部長様には各部会の報告を行っていただきます。そして予定としては、答申書を教育長にお渡しさせていただきます。最後まで忌憚のないご意見を頂戴いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

(学校教育課長)	ありがとうございました。続きまして、次第の3議事に移ります。ここからの進行は、勝田委員長お願いいたします。
(委員長)	それでは、次第の3議事に入ります。(1)検討部会の報告について、11月に教育・学校運営部会、施設・通学路部会、地域課題部会が開催されておりますので、それぞれお願いしたいと存じます。はじめに教育・学校運営部会について飯野部会長さんよろしくお願いします。
(委員)	教育・学校運営部会からは、3つ決めさせていただいたことがございますので、ご報告させていただきます。まず、校名について、子どもたちが意見を出し合って携わることで、学校への愛着が湧くのではないかという意見が出ました。この先、2校で交流し、話し合いながら進めることで、より良いものができるのではないかという意見が出ております。校歌については、思い入れがあるということで、キーワードを地域の方から募集するのはどうかという意見が出ておりました。ただ、1から作り上げるのは中々難しいということで、作詞作曲については、専門家に依頼してはどうかということで意見が出ておりました。この先、開校後、1年間かけて入学した子どもたちを中心に作成してはどうかという意見も出ております。最後に、校章についてですが、長く使えるものだったり、どの学校の校章か分かりやすくするべきだという意見だったり、市民から応募して子どもたちが投票する形はどうかという意見が出ました。以上です。
(委員長)	ありがとうございました。続いて、施設・通学路部会について野崎部会長さんよろしくお願いします。
(委員)	施設・通学路部会ですが、3つ出ております。1点目の通学については、大人だけで議論を交わしておりますので、実際に通っている子どもたちやこれから通う子どもたちに通学の危険個所について、聞いてみてはどうかというところと、それに伴って、交通標識や街路灯、環境整備を同時にやっていく必要があるのではないかという意見が出ました。2点目、自転車通学用の校内駐輪場の収容数ということで、人が増えるのでどうなのかということで、既存の駐輪場でも収容数は足りるということをお聞きしておりますので、こちらは手を付けなくても問題ないのではないかという意見が出ました。3点目、八開中学校・佐織西中学校の交通安全指導について、現在でもやっていただいているということで、家庭内

	だけでなく、引き続き交通ルールの徹底を学校でも続けてほしいという意見が出ております。以上です。
(委員長)	ありがとうございました。続いて、地域課題部会について鈴木部会長さんよろしくお願いいたします。
(委員)	地域課題部会からは、学校と地域の連携について、地元で育んできた伝統や地域行事との関わりが形を変えてでも可能な範囲で継承してほしいということなんですが、八開地域、佐織地域、佐織西中学校区で今までやってきたことをそれぞれ学校一緒になっても、何かの形で続けてほしいという意見が出ました。PTAについてですが、現在、佐織西中学校も八開中学校も非会員の方が増えてきているというのが現状です。本当は皆さんに入っていただくことが良いかと思いますが、愛西市では任意という形をとって、アンケートを取っておりますので、年々会員にならない方が増えているというのが現状で、会議でPTAと協力してという話が出ましたが、今後中々難しいのではないかという話が出ました。コミュニティスクールですが、地域や学校行事、佐織西中学校では今まで愛西工科高校と連携して行事をやっていたそうですが、それが無くなったということで、他の形で何かできたらいいなという意見も出ておりました。現在行われている地域連携の取り組みも生かしたコミュニティスクール、何か新しい形が出来たら良いのではないかという意見も出ておりましたが、具体的に何をということは出ませんでした。今後、これを深く話し合えたらいいなと思っております。以上です。
(委員長)	ありがとうございました。それぞれの報告を聞いて、何かお気づきの点、ご質問などありましたらご意見をお願いいたします。
(委員)	地域課題部会でPTAについての話がありましたが、来年僕も中学校のPTAに携わるのですが、市としてPTAの減少を止める対策は考えてみえるのでしょうか。やらないとどんどん減っていくのは目に見えていますので、何かあれば教えていただきたいです。よろしくお願いいたします。
(学校教育課主幹)	実際に行われている活動について、ホームページなどを通じて、広報しております。学校でできる範囲で協力しながら、活動を模索していると聞いておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

(委員長)	それでは、(2) 答申書(案)について、に移ります。事務局より説明してください。
(学校教育課主幹)	まず、資料2の答申書(案)について、令和6年10月2日付の諮問書から説明させていただきたいと思います。令和6年10月2日、愛西市教育委員会より「B 中学校(仮称)の創設に向けた取組み」について諮問がなされました。現在、日本の教育環境は、人口減少や少子高齢化、ICT 技術の革新などにより急激に変化しています。国においても、新しい時代に求められる資質や能力を育むため、学習指導要領の改訂などが行われてきました。こうした状況を受け、本市教育委員会では、小規模校の課題解消と教育環境の充実を目指し、令和6年3月に「適正規模等並びに老朽化対策基本計画」を策定いたしました。その中で、優先して実施する必要がある5つの施策を定めており、その中の施策3が、現在の佐織西中学校の場所に「B 中学校」を配置することです。今回の諮問にあたり、特に重点的に審議すべき事項として、以下の4つの観点が表示されています。第一に、教育計画と学校運営です。八開中学校と佐織西中学校が一つになることで、新しいコミュニティが生まれます。校名や教育目標の策定はもちろん、生徒指導や部活動の調整など、子どもたちが再編によるマイナスの影響を受けず、スムーズに新しい生活へ移行できるよう準備を進める必要があります。第二に、施設整備です。現在の佐織西中学校の校舎を活用しますが、個別最適な学びに対応した ICT 環境の整備や、多様なニーズに応えるための施設の在り方が求められています。第三に、通学についてです。八開中学校区の生徒にとっては新しい通学方法が必要となります。自転車通学を原則としつつ、全ての生徒が安全に安心して通学できるルートの検討と整備が不可欠です。第四に、地域課題への対応です。学校は地域コミュニティの核でもあります。愛西市においても「コミュニティスクール」の導入を検討し、学校・家庭・地域の連携を強化する必要があります。また、有事の際には避難所としての役割を担っています。子どもたちだけでなく地域住民の皆様の安全と安心を支える存在となるように、避難生活や災害対応に必要な機能の整備が求められています。以上のことを踏まえ、B 中学校(仮称)の創設について、次の事項を中心にご審議をお願いすることとなっております。教育計画・学校運営等に関することについては、学校を運営していく上で必要となる事項について、特に、新しい学区の特性を踏まえること及び再編前の在校生が新しい学校生活にソフトランディングできるような手法の構築についてとなっております。次に、学校施設等に関することについては、子どもたちが毎日学び生活する中学校について、特に、

	保護者や地域の住民として、子どもたちが主体性を身に付け、多様な子どもたちが一人一人に応じて安全・安心・快適に過ごせるような学校施設についてとなっております。次に、通学に関することについては、子どもたちが安全に安心して通学できる手法についてとなっております。 次に、地域課題等に関することについては、地域に必要とされ、地域に存在し続ける中学校について、特に、地域の拠点として交流が行われるとともに、有事の際に避難所として機能するために必要な施設についてとなっております。おわりに、以上の事項を中心に、子どもたちへのケアや環境への配慮を含め、B 中学校（仮称）の創設に向けた必要な事項についての検討をお願いすることとなっております。先程の諮問書を受けまして、B 中学校（仮称）準備委員会から提出されました答申の詳細についてご報告申し上げます。はじめに、近年の日本社会における人口減少、少子高齢化、そしてグローバル化といった激しい環境変化は、学校の在り方そのものに大きな変革を迫っています。教育基本法や学習指導要領の改訂により、子どもたちに求められる資質・能力も新しい時代へとシフトしており、令和3年度からは中学校でも新学習指導要領が全面施行されました。本市におきましても、八開中学校と佐織西中学校の生徒数は昭和の時代と比較して大幅に減少しております。一方で、35人学級制の導入やICTの日常的な活用など、教育現場で必要とされる施設機能は大きく変化しており、これらに対応した新しい中学校の創設が急務となっております。また、学校は「地域コミュニティの核」であり、有事の際の「避難所」としての役割も極めて重要です。現在、全国の公立学校の3分の1で導入されているコミュニティスクール制度の検討を含め、学校・家庭・地域が持続的に協働できる環境づくりを、B 中学校の創設において実現していく必要があります。本準備委員会では、令和6年10月の諮問以降、先進地視察や4回の委員会、さらに6回にわたる検討部会を重ねてまいりました。検討の結果、解決すべき事項として以下の計129個の検討事項を洗い出しました。教育・学校運営に関することとして72個、施設・通学路に関することとして42個、地域課題に関することとして15個となっております。これらの検討事項に基づき、再編後の「あるべき姿」として集約された意見の主なポイントをご説明します。教育計画・学校運営としては、子どもたちの主体性を育み、新しい学校への愛着を深めるため、校名、校歌、校章の決定プロセスには、実際に通うことになる子どもたちの意見やアイデアを積極的に取り入れるべきであるとしています。学校施設としては、現在の佐織西中学校の施設をベースとする中で、駐輪場をはじめとする設備の老朽化への的確な対応が必要です。通学路としては、安全確保のため、大人の
--	--

	視点だけでなく、実際に通学する子どもたち自身から危険箇所を聞き取る機会を設けることが有効であるとの結論に至りました。地域課題としては、ものづくり体験などの地域交流については、高校の閉校などの状況変化に合わせてつづけていく必要があります。また、PTA 活動が子どもたちのためのものであるという理解を広め、協力体制を強化していくことが求められています。本答申として、準備委員会から教育委員会へ要請する事項については、教育計画・学校運営等に関することについては、校名、校歌、校章について、子どもたちの意見を取り入れるよう検討すること。また、校章については、長く使える、誰が見ても地域や学校が分かるものにするよう、検討すること。学校施設等に関することについては、現佐織西中学校の駐輪場について、老朽化への対応策を検討すること。通学路に関することについては、通学時に危険を感じる場所を子どもたちに聞くなど、再編後も活用できるような情報を収集するよう、検討すること。地域課題等に関することについては、状況に合わせた地域交流の継続を検討すること。また、PTA 活動が子どもたちのための活動であることを保護者に理解してもらうことで、PTA 加入率の増加、保護者と学校の協力体制をより強めるよう、検討すること、となっております。本委員会では先進地の事例も参考に多面的に検討を行ってまいりましたが、具体的な改築計画や詳細な教育方針など、未確定な部分はまだ多く残されています。教育委員会におかれましては、本答申に示された要請事項を十分に汲み取り、学校、保護者、そして地域住民の皆様の意見に丁寧に耳を傾けながら、地域に愛される B 中学校の創設を推進していただくようお願い申し上げますとさせていただきます。以上で説明を終わります。
(委員長)	委員の皆様、何かご意見はありますか。
(委員)	PTAの活動が子どもたちのための活動だと保護者に理解してもらう、と記載がありますが、現在草平小学校と八輪小学校のPTAの話を聞くと、同じ愛西市の小学校でも、教頭先生のお考えによるものなのか分かりませんが、全然違うと感じました。答申書で文章として、愛西市としてPTA活動が大事だと書かれておりますが、統一感が無いように感じております。草平小学校のPTA加入率は99%くらいでほぼ加入していただいておりますが、八輪小学校はどうですか。
(委員)	加入率自体は把握しておりません。ただ、それなりには加入しているような印象です。学年に1人か2人、未加入の方がみえるくらいです。

(委員)	開治小学校は減っています。
(委員)	差があるなと感じます。愛西市としての方針が保護者には伝わっていないと感じているので、その辺りを検討していただきたいです。
(学校教育課長)	P T Aの加入率の話がありましたが、八開地区と佐織地区は比較的加入率が高いような状況です。佐屋地区は5 0 %のくらいのところも出てきております。P T Aの加入については非常に難しい問題でして、任意団体なので、市から必ず加入してくださいということは絶対に言えません。加入したくないという意味は尊重しなければならないというところがありますので、市で必ず加入してくださいということは言えないということで、学校の教頭先生方で工夫して今の同意書の形で進めているという状況です。市として、取りまとめはしているという状況ではありますが、市が主導できる立場ではありません。学校によってさまざまな取り組みがあり、学校のP T Aさん同士で話し合っ、色々な取り組みをお互いに取り入れていただくことで、改善をしていただいているという状態です。それ以上に教育委員会が言える立場ではない、P T Aごとで協力していただき、共有していただいているという状況です。
(事務局)	今、ご審議いただいている答申書について、1 年半かけて検討いただいた内容をまとめさせていただいたものです。今回のご審議の結果、これを載せるということになりましたら、教育委員会に要請するというものになっております。今回、ここに書かせていただいたものは検討部会、準備委員会で出た意見と捉えていただき、これを準備委員会として正式にP T A活動を盛り上げていってほしい、活動として理解してもらうように進めてほしいということであれば、このまま載せていただければ良いと思いますし、もし、これはふさわしくないということになれば消していただくというような、そういったご審議をいただければと思っております。よろしくお願いいたします。
(委員長)	ありがとうございます。その他、よろしいでしょうか。
(委員)	第4の終わりの、上から2行目のところに、改築または大規模改修の方針という言葉があるのですが、建て替えは検討されていないということでしたか。耐力度調査の結果で建て替えの可能性もあるということ聞いていたのですが、建て替えの可能性はなく、改築または大規模改修に

	決まったということによろしいでしょうか。
(学校教育課長)	改築は建て替えのことで、大規模改修は今の躯体を使って改修するというものになります。手法については、まだ決まっておりません。耐力度調査を行って、それからでないとは決めることはできませんので、まだ手法は決まっておりません。
(委員長)	ありがとうございます。その他よろしいでしょうか。
(委員)	以前もお話しさせていただきましたが、目的が無いと難しいと思います。2030年なのか、2040年なのか分かりませんが、市として将来的にB中学校をどうしていきたいかが盛り込まれていないと思います。私事ですが、港湾業というものをやっております、うちの業界は24時間労働で重労働なので、若い子に人気無く、高収入なのですが、全く応募が来ないというような状況で、2040年にも日本で1,100万人程度の労働者が少なくなるので、今2030年や2040年に目標を立ててやっております。最近の流れとしては、住宅支援や独身世帯に対しての手当など、そういった生活支援的なもので応募が急増したということがあります。この先、教育課だけでなく、市全体で人を増やすためにどうしていくべきかということで、連携してやらないと、B中学校を作っても、10年後には今の佐織西中の生徒数よりも少なくなってしまう。今、津島中学校や清林館中学校に進学する子も多くなっている中で、これでB中学校にお金を使っても、すぐに他の学校と合併ということになることが目に見えています。市として、人を増やしていくために、目標の人数を決めてやらないとまずいと思います。
(委員長)	ありがとうございます。その他よろしいでしょうか。 《その他委員異議なし》
(委員長)	大幅な修正はなかったので、本日教育長に答申させていただいてもよろしいでしょうか。 《委員長から教育長へ答申書を渡す。》
(委員長)	ありがとうございます。それでは、続いて（3）今後の検討について、事務局より説明してください。

(学校教育課長)	2年前の令和6年3月に「愛西市立小中学校適正規模等並びに老朽化対策基本計画」を教育委員会が策定し、令和6年10月から八開中と佐織西中の再編についての準備委員会ということで、委員の皆様におかれましては熱心な意見交換にて検討していただきありがとうございます。B中学校今後の検討についてですが、これまでの準備委員会でも開校年はお示しできないということでX年として資料に記載してきました。X年がいつになるかということとですが、これは校舎を改築または大規模改修すると、過去の事例から、基本構想、基本計画という設計の前段階、基本設計、実施設計という設計、そして工事と合わせて最短で5年は必要とされており、事業にとりかかってから5年後がX年ということを以前の準備委員会でもご説明させていただいたところです。さらに、その基本構想基本計画の前に建物の耐力度調査というものが国の補助を受けるためには必要があるということも、ご説明させていただいたところです。これまでも耐力度調査の予算計上が見送られるたびに予定を先に延ばし、何度も財政部局と協議を重ねてきましたが、令和8年度予算にも計上することができませんでした。先日、令和8年度予算が愛西市議会にて可決したところです。従いまして、B中学校の再編について、次の段階に進むことができない状況です。「適正規模等並びに老朽化対策基本計画」全体でのお話をさせていただくと、教育委員会では施策1の佐屋小学校老朽化対策と施策5の永和中学校体育館老朽化対策も進めており、両方とも令和7年度、設計の前段階である基本計画の策定をしたところです。設計の前段階として事業を開始しておりますが、次の段階である設計に進むことができるのは永和中学校体育館だけという状況です。というのも佐屋小学校の改築の概算費用が総額74億円程度と見込まれ、事業を進めることが困難な状況となっているからです。市としてはまず、令和8年度から永和中学校体育館の老朽化対策の設計に取り組み、佐屋小学校はその後とせざるを得ない状況です。市の中長期財政計画にも永和中学校体育館については盛り込まれておりますが、佐屋小学校老朽化対策については盛り込まれておりません。現在事業をすすめている佐屋小学校でさえ進められないということですので、B中学校につきましても、このままの計画では進めることはできないと考えております。したがって、準備委員会につきましては、任期である今年度末をもって、一旦区切りとさせていただき、令和8年度は教育委員会にて、今後の進め方について検討をするということにさせていただきたいと考えております。
-----------------	--

(委員長)	委員の皆様、何かご意見はありますでしょうか。
	《意見なし》
(委員長)	ありがとうございました。今回で一旦区切りになりますので、最後に委員の皆様方から一言ずついただけますか。
(副委員長)	先ほどお話しにありましたように、一旦区切りということで、このような会議に携わらせていただけたのは、経験値として高いところに行けたのかなと思いますが、現役の保護者なので、そういった目線を外すことはできませんが、私、草平小学校のすぐ近くに住んでおります。子どもは中学生で小学校には通っておりませんが、目と鼻の先にある学校ですら、今どういった先生がいて、どんな運動会が開かれていて、どんな登下校をしているか、中々見る機会がありません。非常にやるせないところですが、現役の子どもがいなくなると、どうしても学校教育から離れてしまいます。それが非常に残念というか、この今回の会議でとても大切だなと思ったのが、地域と学校、愛西市との関係は大事だなという印象を受けました。どうしても、年を取るとこういったことから無頓着になってしまいますが、実は、経験値を高めた人の意見を取り入れることが解決の糸口になることが多いのではないかと、改めてこの会議で感じました。もう1つ、ちょっと我慢して、冷めた目線でこの問題を考えると、非常に少子高齢化、少子化は避けては通れない道で、それを食い止められるかという、人間の英知では中々食い止められないだろうという時に、私たちはこの時代に保護者になって、少子化のど真ん中で生活しているわけですが、ここにきて財政の問題もあるかと思いますが、なぜ私の子どもが草平小学校や佐織西中学校に通ったかというところに学校があったからなんです。もちろん色々と検討することは大事だと思いますが、ある程度のことを形にして、具現化して、それを与えられてそれに対して対応していくということもこれからの保護者に求められる能力なのかなと思います。何が言いたいかと言いますと、主体になるのは愛西市さん、私たちは建物を改修することもできませんし、物理的なことは中々できないですが、ある程度愛西市さんが自信を持って、「こうするぞ。ああするぞ。」ということをもっと前面に出していただいてもいいのかなと思います。非常に責任転嫁というか、押しつけがましいですが、今後ともよろしくお願いいたします。
(委員)	2年間ありがとうございました。色々と意見があるかと思いますが、学

(委員)	校をつくるという方針は変わらないと思いますので、できたときに開いてよかったね、良い学校だねと思ってもらえるような学校ができることを切に願っております。 2年間ありがとうございました。PTAについて、私も興味があったわけではなかったのですが、ご縁があって会長をやらせていただいております。小学校にとっては、PTA活動、保護者と教員の先生方、地域を繋ぐ良い組織だと思いますので、愛西市の方からこういった活動に協力してもらえるようにしていただければと思います。入学したときに、PTAに入るか、入らないかというアンケートを取られたときに、入らなくてもいいのかなと思ってしまったので、もう少し保護者の方に理解してもらえるようなアンケートの取り方を考えていただきたいなと思います。教頭先生や校長先生のお考えによっても、PTAの活動に幅があるかと思います。統一ではないですが、良い活動だと思いますので、上手くいくように考えていただければと思います。統合に関して、仕事しながら会議に出ることは大変だったのですが、勉強になりました。ありがとうございました。
(委員)	私は子どもも27歳なので、全然小学校に関わりはないのですが、県のPTAにも参加させていただいたので、PTAの活動が全国まで繋がっていて、全国のPTAの方と情報交換をして、良い活動が行われるように会議が行われているということも学びました。草平小学校のくさひらっこ隊と八輪小学校の八輪っこということで、地域の方が学校に入って、子どもたちと触れ合っているという活動がされています。町ですれ違った子どもがらっこ隊の人だと声をかけてくれます。地域との触れ合いは可能だと思います、また、地域の人と話をしていると、ここに学校が無くなったら悲しい、避難場所を考えるとここが一番良いのではという話になります。ここに小学校や中学校があってもほしいという意見は、どちらかというと地域の方の意見で出てきているように感じます。実際、小学生や中学生はここに学校があるから学校へ行くという考えで、行くことが当たり前になってしまえば、例えば、蒲郡の方の学校だと、山から下りてきて1週間そこで生活して、土日だけ家に戻るという生活をしている子どももいます。それが僕の学校だからと言って子どもは通っています。通える場所があって、学べる場所があれば、小学生や中学生はそれで良いと思います。地域の方が集える場所、コミュニティがあるということが大切なのかなと思いますので、そこら辺も含めて、地域に密着、地域に愛される学校という立場、そういった場所をという考えで進めていただければ

	ばと思います。ありがとうございました。
(委員)	色々と意見させていただきました。ありがとうございました。一旦この3月で区切りということだったのですが、次はこういった会議を開かれる予定なのですかということと、開かれるのであればいつ頃という案はあるのでしょうか。
(学校教育課長)	まず基本計画が、施設の老朽化対策を実施して、その後再編をするとなっておりますので、老朽化対策が現状行えないということから、計画を見直すことを考えなくてははいけません。B中学校についての計画をどうするかということを再検討しなければなりませんので、いつということは申し上げられないですが、改築や大規模改修ができなくても、再編は進めることも検討しなければならないと考えております。従いまして、いつ頃ということは申し上げられませんが、教育委員会として検討は進めてまいります。
(委員)	検討ということで、何年後になるか分かりませんが、教育委員会の方もご存じだと思いますが、幼児の子ども数が非常に少ないです。開治学区の年少さんが4人しかいません。コロナの時期の3、4年というのは、非常に子ども数が少ないです。今度、B中学校を建てるにあたっての会議をするときに一番良いのは、子どもを持つ親の意見はすごく深刻に考えていて、例えば私が10年経つと、子どもは成人していて、学校からは離れた立場になります。そうすると、学校の中身が見えないので具体的にどうしたいか、時代に合わせたものでどうしたいかという意見が離れるのかなと思います。そうすると、子ども数が少ないということは保護者の数も少ないと思います。こういった会議に出てくれる人がいるのかなという、少し心配です。八開地区は少子高齢化の影響を受けていて、うちの近所にも空き家がすごくあります。今の少子化を受け、大人になって何人が残るのだろうというすごく心配なのですが、その時に準備委員会に、私も公募なのですが、1次では埋まらなくて2次か3次で入りました。実際にいなかったんです。何年か経ったときに出てきてくれる方がいるのかなと思うと心配です。PTAについてですが、PTAの活動を理解できていないのに、アンケートを取って提出するというので、グループで入らない方もいらっしゃいます。入っていない方に話を聞いた時にこの人数だから役が当たるので入らないという方もいらっしゃいました。そういう考えの方が全員とは言いませんが、すごく増えてきています。子どもが通っている学校に協力しない人が準備委

	員会に協力してくれるのかなと思うとすごく心配です。なので、やり方を考えないと、協力してくれる人、若い人の力がすごく大切なので、そういった方たちを育てるような方針を考えないといけないと思います。色々なことをPTAのことにしても、地域のことにしても、学校のことにしても真剣に考える時間をもらって、私なりに勉強させてもらい、この会が無駄ではなく、B中学校を建てたときに良かったなと言ってもらえる学校ができることを祈っています。ありがとうございました。
(委員)	一公募委員として、色々と意見させてもらいました。取りまとめることは大変だと思いますが、やれることに関しては早急に対応していただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。
(委員)	私は公募で途中からの参加だったのですが、参考になりました。私の父親も草平、私も草平、息子も草平ということで、お役に立てないかなと思いました。先日、小学校の同窓会があり、先生も80いくつですが出てくださって、結構20人、30人くらい集まりました。みんな地元にあります。女性も嫁いだ方もいた中で戻ってきてくれました。一方で、私の息子も同窓会というか、何人かで集まって、30歳ですが、私の息子も大阪にいますが、ほとんどの方が愛知県、愛西市にいません。先日自治会の寄り合いがあり、町方ですが、色々な班がありますが、そのうちの1つの班が自治会を脱退すると言っていました。理由が班長をやりたいくないということでしたが、結局認められました。こういったことが増えてくると思います。色々言いましたが、教育委員会だけでなく、愛西市全体がそういった問題が水面下で起きていることを知っていただきたいと思います。また、機会がありましたら、こういった委員会も出ていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
(委員)	本日、佐織西中学校の中山校長先生が不在ですが、両校合わせて委員の皆様は2年間にわたり、両中学校のためにご意見をいただきまして、大変ありがとうございました。現状、私共の方でやっていることを少しご紹介させていただくと、建物のハード面に関することは愛西市さんをお願いするしかないと思っておりまして、学校としてできることは子どもたちへの指導をどうするか、ソフト面をどうするかというところで考えております。再編後の垣根を低くして、スムーズに教育活動に進めるようにしていけたらと考えております。今現在でも日課表を交換し、再編後にどうしていくと良いか、考えております。部活動、卓球部やバスケット部が合同で練習したり、部活動から垣根を低くしてやっていくというこ

(委員)	とも既に始めております。また、有事の際には体育館が避難所となりますので、今年度本校では避難所開設訓練を実施しました。もし何かあったときに、中学生が率先して、地域の人の命を守っていくという訓練を行いました。そういったことも再編後に必要になってくると思います。 また、先ほど、P T A加入率の話が出ておりましたが、本校としても喫緊の課題と考えております。P T A加入率を下げないためにどういった取り組みができるのかということを教頭とも話をしたのですが、1つは活動自体を見える化することは大事だと考えておまして、色々な方に話を聞くと、役員になったら嫌だということでP T Aに加入しないということも聞いたことがあります。入学説明会でも小学校6年生の保護者の方にP T A活動について話をさせていただきましたし、修了式の直前に現在の中学1年生、2年生に再度加入を促す案内をしたり、今度のP T Aの総会では役員の1年間の仕事一覧をお配りし、仕事について配慮していることを伝えられるようにしたいと考えております。現在、入学式や卒業式でP T A会長さんから祝辞をいただくこともございませんし、あるいは、体育祭でP T Aからのお言葉ということもございませんし、できるだけ負担のないP T A活動をお願いしたいと思っておりますので、何かご意見がございましたらよろしくお願いいたします。 今年から1年やらせていただきました。貴重な機会に参加させていただき、ありがとうございました。私事ですが、八輪小学校の6年生の子がおり、無事卒業しまして、来年度から八開中学校に通うことになります。今P T Aやっているの、P T A免除されるならラッキーと思っている立場でした。申し訳ございません。そういった話はさておき、私今年からこの準備委員会に入ったので、既にB中学校（仮称）で八開中学校が佐織西中学校の場所に移動するということからの委員会しか参加しておりませんが、もっと前だと八開や立田で小中一貫校を建てるなど、色々な計画を多方面に検討していただいていたと思いますが、ここまで来てやはりやれないので委員会も解散となるくらいであれば、そもそも計画を止めて、せつかく国が少人数学級が良いと言って、愛知県はさらに1年前倒しで35人学級をやっていて、少人数学級が悪いはずではないと思います。少人数だからこそきめ細かい教育ができるということがあると思います。ハード面のところで、学校を建て替えるとなると色々な問題が出てくると思いますので、他のハード面の改善、タブレットを共有できるような取り組みや、I C Tを使えば佐織西中学校の生徒との交流もできて、主体性も育まれると思うので、学校を1つにしないといけないわけではない時代になりつつあると思いますので、この計画自体、市
-------------	--

	が一緒にするよ、できないよということですのでごくブレブレで、集まっていたりしている方も検討したことが無駄になって、振り回されているという失礼かと思いますが、そんな感じを受けます。そもそも統廃合が必要なのかというところから検討しても良いのではないかと思います。犬山市だと、絶対統廃合しないと市長さんがおっしゃっているということも聞きましたので、色々な方面から検討していただき、子どもたちが愛西市で教育を受けられて良かったと思えることが正解だと思います。統廃合することが正解ではなくて、愛西市でこういう教育が受けられて良かった、俺愛西市にいてよかった、私愛西市におってよかった、今後ここに住みたい、自分たちの子どもにも愛西市でこういう教育を受けてほしいなと思ってもらえるような仕組みづくりができると良いなと思いました。
(委員)	私も今年の1年だけの任期で、佐織西中学校の評議員も兼ねておりましたので、この1年は70歳を超えておりますが、学校現場の課題や中学校の再編に当たっての課題を見ることができました。先ほど、準備委員会がひと区切り、まず永和中学校体育館の事業がスタートする、それから佐屋小学校だと、順番で行くとその次になるのかもしれませんが、事業がスタートして最短で5年かかるということでしたので、気の遠くなるような先、最低でも10年以上先だと思います。そうすると、色々な世の中も変わっていくと思います。コミュニティの会長もしておりますが、愛西市の各地域コミュニティセンターが廃止になるということ、数年先には廃止になるわけで、そうすると、小中学校は避難所として、コミュニティの核として機能していくことを思っております。そうすると、今後の財政当局との協議の中で学校の防災に対する面が検討されるのかと思いますが、2年間の委員の意見を無駄にしないようにしていただき、計画が挙げたときには委員の意見を踏まえて、より良い計画にしていっていただければと思います。
(委員)	コミュニティの会長も今年度やらせていただき、昨年度は総代もやらせていただいております。色々な市役所の方、市役所の組織と関わりのない人生を送っていたのですが、80歳を前にして、そういった機会に恵まれたというか、大変な時期でした。B中学校の準備委員会の意見ということでしたが、年に1回程度会議に出ただけで、感想や意見など何を言ったら良いかとずっと考えておりましたが、何も考えつきません。たった1回のことでこのような大きな問題を簡単に語って良いものか、述べて良いのかと自分でも自信がありません。ただ、1つだけ感じるこ

	とは、地域の問題、学校の問題、市政の問題と色々な分野があり、小さな組織や家庭の問題だったら、明日ここに行こうかでも行けませんが、大きな組織で市のような組織であれば、色々なところから意見があり、難しいかと思います。そんな中で、できることならもう少しスピードを上げた進め方、進めてほしいなという希望です。それを感じておりました。X 年後が10年も20年も先だという話で、少しスピード感が欠けると感じました。お骨折りいただいている方には僭越なお言葉かと思いますが、できることなら少子化、人口が増えれば愛西市が良くなるのではないかと思います。これからどんどん子どもが少なくなっていくのに、大きなものを建てようとか、税金の収入を見込もうだとか、そんなことを考えていても夢物語かかと思うので、現実的なことを考えていかなければならないと思いました。そのようなことを考えていた1年でした。
(委員)	この会議に出させていただきまして、色々と勉強させていただきました。ありがとうございました。財政面で色々な問題があるかと思っています。この問題にかかわらず、教育にお金を是非かけていただきたいと思っています。それが愛西市の発展に繋がるとしますので、教育にお金をかけていただけるような市であってほしいと思います。よろしく願いいたします。
(委員)	私も1年で短い期間でしたが、色々と勉強させていただきました。ありがとうございました。皆さんの熱い思いが反映された新しい学校ができればいいなと思いました。ありがとうございました。
(委員)	今年1年参加させていただき、皆さんの熱い思いに感銘を受けました。これから計画を見直されるということでしたので、頑張ってくださいの一言しかありません。ただ、草平小学校、佐織西中学校の仲間がすごく大きな財産になっておりますので、小学校や中学校の役割はすごく大きいと思います。私の孫が近々入学するのですが、どうなるのかなという不安があります。今年1年、総代をさせていただきましたが、小学校区は大変大事な区域だと思います。そういう意味で、小学校中学校は地域にとって大事なものだと思います。町方は特殊な地域だと市役所の方はご存じだと思いますが、北河田学区も含まれております。そういった中で、地域の活動というところも難しくなっておりますが、防災拠点が小学校、中学校にということで、そのことの活動がもう少し地域でも必要ではないかということで、避難所開設訓練という話がありましたが、非常に感銘を受けました。地域との連携が大切だと思います。小学校、中学校が非常に大切だと思いますので、将来、子どもが生き生きと通って

	いけるようなものをつくっていただきたいと思います。ありがとうございました。
(委員)	私も1年間でありましたが、ありがとうございました。通学に関して、自転車通学が基本であるかと思いますが、今後はバス通学を考えていただけないかと思います。冬になると、暗くなるのも早くなりますし、道中の危険も多くなるかと思うので、市には巡回バスがありますので、バス通学を検討していただけたら良いかと思います。ありがとうございました。
(委員長)	それでは、最後に私からも一言ご挨拶させていただきます。ただいま、事務局から、今回の準備委員会で一応一区切りを迎えるというお話を伺いました。冒頭でも述べましたように、今は非常に予測困難な時代で社会の変化のスピードも速いです。たとえどのような時代であっても、愛西市の子どもたちが、愛西市の学校で学んでよかった、愛西市で育って幸せだったという思いをもち続けてほしい、この願いは不変です。委員の皆様が作り上げました愛西市の教育への熱い情熱が込められた答申が早期実現し、子どもたちの笑顔あふれる学校づくりにつながることを願っております。委員の皆様、これまでの多大なるご尽力に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返しいたします。
(学校教育課長)	ありがとうございました。本日で、委員の皆様の委嘱期間は終了となります。それでは、最後に教育長から一言ご挨拶申し上げます。
(教育長)	教育長の河野でございます。委員の皆様から色々な角度からご意見をいただき、一つ一つに意味があり、方向性が見える、人それぞれ思いは違えども、根底には愛西市を良い方向に向かせたい、子どもたちに将来良い思い出を持ってもらいたいというところでの意見なのかなということで、この会の内容について、本当にこれでよかったのかということも、力及ばずという言葉を使ってはいけないのですが、そういったことを思いつつ、用意していた文面を読ませていただきます。B中学校（仮称）の創設に向けた取り組みについて、令和6年10月の愛西市教育委員会からの諮問に対し、この3月末まで1年と半年の時が経ち、B中学校（仮称）準備委員会から本日答申をいただきました。この間、委員の皆様には、先進地視察や4回の準備委員会、延べ6回の検討部会を開催し、諸課題に対する検討を進めていただきました。そして、答申の中で4つの

(学校教育課長)	観点に関する事項を詳細に検討することの要請を受けました。今後、教育委員会としては、第Ⅰ期基本計画の全体の見直しを図り、再度、施策３におけるＢ中学校（仮称）準備委員会を立ち上げる際には、答申書の内容をもとに、未来ある子どもたちのことを第一に考え、今後とも地域に必要とされる学校環境の整備に努めてまいります。勝田委員長さんをはじめ、委員の皆様につきましては、これまで賜りました貴重なご意見と真摯なご審議に心より感謝申し上げます。本答申が今後の礎となることに深くお礼を申し上げ、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。 それでは、これを持ちまして、第４回Ｂ中学校（仮称）準備委員会を閉じさせていただきます。２年間にわたりありがとうございました。
-----------------	--